第14回

Welcome to 500E CLUB

500E倶楽部

熱血的 W124 愛好家の広場

新年明けましておめでとうございます。オールペン作業も着々と進行し、公開できる日も近づいてきた。さて、今月は軽量FRP製トランク＆ボンネットの装着と、板金屋ならではの小技、高性能LLC＆オイル交換、さらにオーナーにはうれしいフィルムアンテナなど山盛り紹介。

文・撮影＝ニイベサトシ　タイトル写真＝アオキスタジオ
協力＝スピードジャパン／サバイブ／えちごや／BASFコーティングスジャパン
アペックスコーポレーション／原田商事株式会社

今月のメニュー

■FRPトランク装着　■組み付け前の小技紹介
■LLC＆オイル交換　■バンパーアンテナ装着

続々と発売されるボディ回りの新製品

今更ながら500E人気の過熱ぶりに驚き、本連載の反響の大きさに戸惑いながらも着々と進行しているヘアライン号のオールペン作業。

さらに驚いたことに、続々とボディ回りの新製品が開発されている。生産終了後13年超のクルマに新製品が販売されるなんてことはまさに前代未聞！

今回紹介するのは、えちごやオリジナルの軽量のFRP製トランクとクーリングダクト付きボンネット。

FRPトランクの重量は5・5キロと、スチール製の約1／3。何よりも特筆すべきはその作りの良さ。安価なFRP製品にありがちな型の歪みやずれがなく、トランクのチリも一発で合う品質の高さ。裏骨の作りも良く、トランクのロック、メッキモール、トランクキャッチの穴はもちろん、何と内張り固定用の穴まで寸分違わず再現されている。

次は、ユーザーお待ちかねのクーリングダクト付きのFRPボンネット。超高速走行に合わせて、ボンネットキャッチ部分と左右のヒンジ部分に補強用のジュラルミンをサンドイッチ成形した高機能部品。重量は約8キロとこれも純正の1／3。

既存製品にはない左右のエアアウトレットが新鮮！　格好だけでなく、ラジエター、エンジンファンからの熱気をスムーズに排出し、エンジンルーム内部の温度を下げるとともに、ダウンフォースを稼ぐという優れもの。気になる右バンクのEZLには雨除けのフタを製作中というから、しっかりツボを押さえている。

開発したえちごやで作りの良さの秘密を訪ねたところ、某自動車メーカーの外注先というからここでも納得。

やっとライト、ボンネットが付いて500Eらしい顔に！　新品のライトとシルバーのコアサポートステーがまぶしい。

補強用の追加の裏骨の形状がよく分かる。前のボンネットキャッチは純正を利用。ジュラルミンサンドイッチ補強で強度も十分。

エンジンルーム内に落とし込まれた左右のダクトの形状がよく分かるショット。熱だまりの左右バルクヘッドから強制排気が可能。

高品質な軽量FRPトランクとボンネットで見た目と軽量化を両立

前後合わせて約25キロ超の軽量化、それもオーバーハングの軽量化は、サスペンションやブレーキ、加速にも好影響を与えるに違いない。

裏骨の形状がよく分かる写真。メッキモールやエンブレム用他の下穴も全て完備。黒ゲルコートのままでも十分にカッコイイ。

トランクは後期用の形状で、FRPの2プライ＋裏骨。粗悪品のFRPトランクとは一線を画したベンツの車格に合う一流品。

■問い合わせ：スピードジャパン　http://www.speedjapan.co.jp　えちごや TEL052-401-6938　http://www.na.rim.or.jp/~etigoya

DIY作業にも参考になる
機能充実のカギは「熱と風」

板金屋ならではのモディファイ&小技

オールペンの山場である上塗り作業も無事に完了。あとは外した部品の組み付け作業のみ。ここでは地味な作業の陰に隠された板金屋ならではの小技を紹介しよう。

HIDの取り付けにも隠されたノウハウがあった

本誌史上最大の至極のオールペン作業も、全ての塗装工程が完了し、あとは個別に塗装された外板を丁寧に組み付けるのみとなった。今回は、派手な大作業の陰で、見過ごされがちな小技を紹介したい。

初めはホーン移設の小技。二つある500Eのホーンのうち、ラジエターの前にあるものをバンパー下部に移設し、金属製のステーを板金でスムージングすることにより、滑らかなエアフローを可能にした機能美がグリル越しに垣間見られる。

次は、ライト横の導風パネル。500Eには装着されていない小さなプラスチック製のパネルをライト横に装着し、サバイブ特製のエアインテークダクトと合わせてスムーズに吸入エアを導入できるというもの。

三番目は、ファンレジスターのグリル裏への移設。左ライト裏にあるファンレジスターは、それ自身の発熱とエンジンルームの熱の影響で劣化し、配線までも傷めてしまうので、Sクラスのようにグリル内に移設し熱対策を講じるとともに、劣化した配線をヒューズボックスから引き直した。これで酷使されがちな電動ファンの配線トラブルも未然に防げる。

最後は、11月号で紹介して反響の多かったツインバーナーのHID装着のためのノウハウ。読者から装着方法の問い合わせも多かったので、サバイブさんにお願いして装着ノウハウを公開することにした。

作業を担当した同社の加藤さんは「板金作業で入ってくるクルマを見ると、いい加減な取り付け作業のものが多い」と顔をしかめる。それは、バンパーの脱着のことを考えていない「やっつけ仕事」や、ノイズの多いインバーターの特性を考えずに、ECUやイグナイター、ABSのユニットの近くにHIDのバラストを装着している例、そして熱害を考えずに装着している例だという。

例えば500Eなら、右のウォッシャータンク前や左側のファンレジスター付近は熱だまりとなるので、熱に弱いHIDユニットがパンクしたり、寿命が短くなるため、できれば装着を避けるべきだという。

そうなると、HIDのバラスト装着のベストポジションは、必然的にヘッドライト下のバンパー付近か、インナーフェンダー内となる。

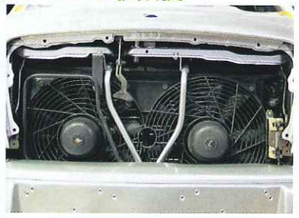
確かに、装着のためにバンパーやフェンダーの脱着作業のほかに、専用延長カプラーの製作や防水加工等も必要となるが、満足のいく仕上がりのためにはぜひ実施したいポイントであるといえよう。

ベンツを知り尽くしたプロならではの小技の数々

>>> ホーン移設前

こちらがホーン移設前の写真。グリル内のステー中央部にホーンが配置されているため、冷却風がスポイルされるのは否めない。

>>> ホーン移設後



ホーンを右バンパー内に移動し、残ったブラケットはカットして塗装。冷却効果も僅かだが上がり、すっきりした印象に！

イグナイターと同時点灯キットはフェンダー内に設置。高温になるエンジンルーム内の設置はできれば避けたいところ。

移設したホーンは右側に纏めて設置。取り付けには手間がかかるが、HIDユニットもここならノイズや熱、水濡れの影響がなく安心。

吸入空気をライト裏のエアインテークへとスムーズに導く純正品のフラップを装着。500Eには装着されていない。

白くボロンコーティングされたラジエーターがE55用高効率軽量プラスチックファンの先に見える。冬では冷え過ぎるくらいの放熱効果。

高機能赤外線反射ガラスを特注！

外装をここまでやるんだったらということで、赤外線反射ガラスをW124用に特注で製作した。入手が超困難な特注ガラスである。どうしても欲しいマニアには、スピードジャパンで生産ロットの予約受け付け中！

■問い合わせ：スピードジャパン
TEL：03-3555-8865
URL：http://www.speedjapan.co.jp/

■問い合わせ：サバイブ　TEL.048-223-9119　http://www.c-survive.com　BASFコーティングスジャパン　http://www.rm-bnc.com/